

自衛消防訓練審査会に参加！！

自衛消防訓練審査会は、防火管理体制の充実と防火意識、活動技術の向上を目的に、春日部市の事業所を対象に実施しています。男子・女子・男女混成のチームに分かれ、消火器での初期消火から119番通報、非常放送による避難誘導、屋内消火栓操作までの一連の技術を競います。

10月12日に、春日部市消防本部にて市内27事業所32チームが参加し開催されました。

彩光苑の成績ですが、男子の部では4位入賞、そして混成の部では見事優勝となりました。

当日まで、高い意識を持ち、練習を繰り返し行った成果が結実しました。参加職員の方お疲れ様でした。

☆男子の部…4位入賞（柳橋友哉・石野浩樹）

☆混成の部…優勝（嶋津洋平・秋元恵美）



寿司奉仕

11月15日に春日部鮎商組合の皆様（店主）が来苑され、寿司奉仕（にぎり寿司）が行われました。

寿司職人の皆様、入居者様の前で寿司を握ると、見ていた入居者様から「美味しそうだね」などの声があがりました。お寿司は、入居者様に食べやすいように、一口大に切り分けたり、散らし寿司にしたりなどの工夫を行っています。入居者様からは「やっぱり寿司は美味しいわ」「来年も来て下さい」などの多くの喜びの声があがりました。

寿司奉仕に来て頂いた職人（ボランティア）の皆様、美味しいお寿司をありがとうございました。またのご来苑を、心よりお待ちしております。



内牧クリニック 便り

高齢者肺炎球菌ワクチンは3月31日まで！ インフルエンザにかかると、肺炎にもかかりやすくなります

平成29年度は、以下の年齢の方が 肺炎球菌ワクチンの対象となります

※平成29年4月2日～平成30年4月1日までに、
下表の年齢の誕生日を迎える方

65歳	70歳	75歳	80歳
85歳	90歳	95歳	100歳

外出後は、感染対策の
ために、うがい・手洗い
をしましょう



うがい・手洗いをされると
俺たちは、困っちゃうなあ

理 念

私たちは、地域の人々のために、共に手をつなぎ、一人ひとりを大切に、安心して暮らせるように「福祉・医療・保健」を連携させたサービスを提供します

- 基本方針 -

- 特別養護老人ホーム 彩光苑（介護老人福祉施設・短期入所生活介護）
- ・家族や地域の人々とともに、高齢者の尊厳を守りつつ寄り添うケアに努めます
 - ・利用者のみなさまが、安全で安心して暮らせる環境を整えます
- ケアハウス 彩光苑（軽費老人ホーム・特定施設入居者生活介護）
- ・利用者のみなさまの声を大切に、いつまでも自立した生活が出来るよう支援します
 - ・食事や入浴のサービスを通して、健康的な生活をささえます
 - ・生涯にわたり、安心して生活を営むことができるサービスを提供します
- 内牧クリニック
- ・地域の人々の健康を願い、心のこもった医療を提供します
 - ・誰もが気軽に集えるクリニックとして、健康相談を行います
 - ・社会福祉法人のクリニックとして、生活困窮をかかえる方々の医療をささえます

彩光苑だより 第57号

ふれあい

発行 社会福祉法人 恩賜 済生会
財団

支部埼玉県済生会彩光苑
〒344-0051

春日部市内牧3149

発行者 所長 田嶋 襄

編集 広報委員会

発行日 平成30年1月25日

彩光苑だより 平成30年 第57号
特別養護老人ホーム彩光苑 ・ ケアハウス彩光苑 ・ 内牧クリニック



ふれあい

クリスマス会（特養3階）



12月25日に、毎年恒例となっているクリスマス会が行われました。

当日は、サンタクロースに扮した職員が、入居者様の前にあらわれました。風船バレーやカラオケなどを入居者様と一緒に、大いに盛りあがりました。また職員によるハンドベルの演奏は、緊張したおももちの中ではありませんでしたが、入居者様の暖かい声援や拍手に助けられ、最後まで演奏することが出来ました。最後にクリスマスケーキを召し上がっていただき、入居者様も大変喜ばれていました。

外はからっ風の吹く、非常に寒い天候でしたが、彩光苑内は温かさでぬくもりに包まれ、ぽっかぽかのクリスマス会となりました。

渥美二郎様歌謡ショー

12月21日、苑内にて渥美二郎様の歌謡ショーが行われました。

艶やかな歌声と、軽妙なトークをまじえながら10曲を披露されました。会場は和やかな雰囲気になりました。今年は渥美二郎様にとりまして演歌道50周年の記念すべき年にあたり、会場も非常に盛り上がりしました。「夢追い酒」を歌われた際は、入居者様とデュエットを行い、一緒に唄われた入居者様も非常に喜ばれておりました。またアンコールでは、新曲の「涙色のタンゴ」を熱唱されました。

入居者様の中には、感動のあまり涙をぬぐっている方や、握手を何回も求める方もおりました。終わった後も「参加してよかった」「やっぱりいい声ね」などの感想も聞かれました。たいへん楽しいひと時を過ごすことができました。



2018

新年のご挨拶

 彩光苑 所長 田嶋 襄 

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成30年は、昨年に引き続き、国内外の重要課題が山積している状況に変わりはありません。国内では、少子高齢化、憲法改正論議、経済再生、AI（人工知能）や現天皇の退位問題など多岐に亘っています。国外では、日本周辺諸国の東アジア地域における危機、とりわけ北朝鮮問題が脅威でありますし、韓国や中国との外交問題も重要性を呈しています。こうした状況の下、介護事業所の最大の問題は、介護人材不足が常態化していることであります。この問題は、介護保険制度の根幹を揺るがすことにもなり兼ねませんので、早急な対策が求められる状況に変わりはありません。

さて、平成30年の当苑は、第三期中期ビジョン(28～30年)の最終年度に当たります。今期の目標は、地域の中でもより優良な介護施設を目指すことを重点に諸課題に取り組んでまいりました。その総括をする年度でもあります。取り組みの柱につきましては、新年度に当たる「ふれあい4月号」に掲載いたします。同時に、社会福祉法人済生会として、社会貢献活動にも重きを置き推進してまいります。昨年、当苑に社会貢献活動支援員を配置し、地域のニーズに対し、柔軟に受け入れ可能な体制を作りました。現在までの活動としては、生活困窮者支援、講演・研修会の提供及び施設の地域化として地域開放スペースの提供などを進めております。今年は、新たに「生活困窮及びひとり親世帯の子ども学習支援」活動を実現できるよう取り組みます。高齢者介護事業は、昨今の厳しい環境に変わりはありませんが、職員一人ひとりの頑張りと組織力を活かし、入居者様を第一に安全で安心してお過ごしいただける施設として、信頼される運営に努めてまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして良き年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。



 内牧クリニック 院長 前川勝治郎 

皆様、明けましておめでとうございます。

内牧クリニックは7回目の新年を迎えることが出来ました。年々多くの方が利用されるようになり、関係者や住民の方には大変感謝してまいります。今年も皆様方にお役に立てるように努力を重ねていきたいと思っていますので、宜しくご指導の程お願い申し上げます。

昨年1年間の当クリニックでの内視鏡検査の実績は、上部消化管が290件、下部内視鏡検査は129件で、そのうち悪性疾患は上部では早期が1例、下部では早期が2例、進行が3例でした。いずれもご本人やご家族の希望に沿って専門病院へ紹介させて頂きました。

近況では、昨年の12月中旬に、外来でB型インフルの方が1名だけでした。しかも自覚症状は典型的でなく、ワクチン接種非施行例でしたが、発熱は微熱のみで、咳と節々の痛みだけでした。しかしなんとなく気になり、ご本人の希望もあって念のため、インフルエンザのテストを施行したところ陽性で、即点滴を施行しました。決め手の一つは流行時期と周囲の状況に加えて、咳と全身の節々の痛みだと思いました。

今期のインフルエンザの接種に関しては、ワクチン不足で、接種時期が遅れ、近隣の皆様方には、大変申し訳なく思っています。また昨年の12月初旬も近隣の工業団地におもむき、臨時の診療所を設定し、予防接種を施行させていただきました。

近隣の方々との“ふれあい”の市民講座では、昨年の4月19日に内牧公民館で「血管を若返らす健康法」をテーマに、11月22日では川口信用金庫の会議室で「消化管がんについて」の講演をさせて頂き、多くの方が来てくださり感謝しております。

今年は「戌」年、干支11番目です。診療に誠心をもって、また1年頑張っていきたいと思えます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を祈念し、これまでと同様にご支援を賜りますよう宜しくお願い致します。

彩光苑の口腔ケアの取り組み(紹介) その2

彩光苑の口腔ケアの取り組み(その2)をご紹介します。今回は、口腔ケアプロジェクトの設立時のメンバーである、小川君江・根岸和広の二人の介護職員にお話を伺いました。当時の口腔ケアの様子と現在の口腔ケアの職員の意識は大きく異なりますが、どのように取り組んでいったのでしょうか。

(小川君江) 彩光苑では、高齢者の死因のトップが肺炎という事を受け、『誤嚥性肺炎の予防』という目標を掲げ、平成22年度より口腔ケア推進プロジェクトを設立しました。

設立当初、排泄介助や食事介助に比べて、口腔ケアの必要性が理解できておらず、どれ程予防できるのかが、漠然とした状態でした。そこで、口腔ケアが入居者様の生活の重要ケアである意識することからはじめました。歯科医師・歯科衛生士による勉強会を繰り返し開催し、関係職員が連携し合って、知識や技術の向上を目指しました。

また、入居者様にあったケア用品をそれぞれ選定する、鏡を使用する等の工夫により、職員だけではなく、入居者様にも口腔内が綺麗になる様子、口腔ケアの大切さを意識してもらうように努めました。毎月振り返りを行い、目標(課題)を挙げ、達成出来るように一丸となり取り組むことで、平成25年度には口腔ケアの必要性について、済生会医療福祉共同研究で発表するまでに至りました。

プロジェクト設立の前年(平成21年度)は、肺炎による発生率(入院)は29.8%でしたが、平成25年度には4.8%まで低下しました。また口腔ケアに取り組むことで、誤嚥性肺炎の予防だけでなく、口腔機能の維持や認知症予防など複数の効果が期待できる事も分かりました。現在も、誤嚥性肺炎予防について、継続的に取り組んでいます。

(根岸和広) 当時の彩光苑では、入居者様の口腔ケアが不十分であり、食事後の食残が口腔内に残ってしまう方が多く見られました。誤嚥性肺炎にて体調を崩す方も多く見られたため、口腔ケア推進プロジェクトが設立されました。

口腔ケアに必要な物品を揃え、介護職員に口腔ケアの指導を行いました。また、氷水を使って口腔内に刺激等を与えることによって、唾液の分泌を促すアイスマッサージについて指導を行いました。

一番大変だったことは、今までの口腔ケアのやり方を見直す事、口腔ケアの重要性を介護職員に伝える事でした。口腔ケアの方法が、介護職員により大きな違いがありました。しっかりとした歯磨きの方法・口腔内の食残の確認をする事を意識付けて指導を行いました。

現在は、歯科衛生士も入職し、介護職員と協働しながら口腔ケアを実施しています。口腔ケア推進プロジェクトの開始時に比べて、入居者様の口腔内をきれいに保てるようになりました。入職したての職員にも、口腔ケアの方法を1から指導しています。歯科医師や歯科衛生士と共に、入居者様の口腔内の清潔保持を行ない、誤嚥性肺炎を防ぐよう今後も努力していきます。

春日部そば打ちクラブ(ケアハウス入居者に手打ちそばを振る舞う)

11月29日に春日部そば打ちクラブの皆様にお越しいただき、田嶋所長と一緒に手打ちそばの実演が行われました。

入居者様に打ちたての美味しい「新そば」を召し上がっていただきました。入居者様にはお代わりをされる方、「美味しかった」「また食べたい」と、にこやかに話されておられました。次回の手打ちそばの日を楽しみにお待ちしております。

